

96. 解答 e

- a. 誤： ^{99m}Tc -MAG3 は血中蛋白と結合し、尿細管より能動的に排泄される。
- b. 誤：急性尿細管壊死では血流は保たれるものの、腎実質からの排泄が低下する。
- c. 誤：腎有効血漿量の測定には主に ^{99m}Tc -MAG3 が使用される。
- d. 誤：慢性腎盂腎炎の癒痕診断には ^{99m}Tc -DMSA が用いられる。
- e. 正：腎血管性高血圧の診断にカプトリル負荷前後でのレノグラムの変化が有用である。

97. 解答 c

- a. 正：多発性集積は骨転移の可能性が比較的高い。
- b. 正：転移巣周囲の骨代謝亢進によりドーナツ状を呈する。
- c. 誤：椎体の板状集積は圧迫骨折で見られることが多い。
- d. 正：肋骨、四肢骨などは長軸方向に進展し、長い集積を示す。
- e. 正：全身のびまん性骨転移では腎集積が消失する (super bone scan、absent kidney sign)。

98. 解答 e

- a. 誤：大脳皮質は生理的に強い集積を示す。血糖値により変動する。
- b. 誤：小脳皮質にも比較的強い集積を認める。
- c. 誤：口蓋扁桃にはやや強い集積が見られる。
- d. 誤：耳下腺には軽度の生理的集積を認める。
- e. 正：甲状腺への生理的集積は通常認めない。慢性甲状腺炎があるとびまん性に集積する。

99. 解答 a

- a. 正：胃癌は保険適応になっていない。その他は保険適応疾患である。

100. 解答 a

- a. 誤： ^{131}I 治療により甲状腺眼症が悪化する場合がある。
- b. 正：逆に低分化な甲状腺癌では転移巣への ^{131}I 集積が乏しく、治療効果が得られない。
- c. 正： ^{89}Sr は純 β 線放出核種であり、製品の最大投与量である 141MBq でも退出基準の 200MBq 以下となるため外来投与可能である。
- d. 正：正常骨を含めて集積するため、副作用として骨髄抑制が問題となる。
- e. 正：抗 CD20 モノクローナル抗体に ^{90}Y を結合させた薬剤であり、「CD20 陽性の再発または難治性の低悪性度 B 細胞性非ホジキンリンパ腫およびマントル細胞リンパ腫」が保険適応である。

以上、解答 96~100 は田邊 博昭会員 (鹿児島大学病院)